

ボゴタ日本人学校における現地理解教育への取り組み

— 治安に配慮した校外学習・現地校交流の活動を通して —

前ボゴタ日本人学校 教諭

愛知県刈谷市立雁が音中学校 教諭 浅岡 秀雄

キーワード：現地校との交流、現地理解、スペイン語学習

1. はじめに

コロンビア共和国は南米大陸の北西部に位置し、北はカリブ海、西は太平洋に臨み、北西部でパナマに、東はベネズエラとブラジルに、南はエクアドルとペルーに接している。国土の広さは日本の約3倍で人口は約4,400万人（日本の3分の1）である。

1970年代のマリファナの栽培と密輸、1980年代はコカインの精製と密輸、麻薬組織と政府との全面戦争等、あまりおもわしくないニュースばかりが日本では報道された。現在も反政府ゲリラであるFARC（ファルク）等による誘拐事件や爆弾事件が発生している。さらに日本企業駐在員の誘拐事件などがあったことも、日本企業の撤退やそれに伴う日本人学校の児童生徒数の急激な減少の原因となっている。

ボゴタ日本人学校の教育活動も、これらの治安の問題に大きな影響を受けていた。修学旅行をはじめ、校外学習や現地校との交流など安全面に大きく左右され、縮小傾向または、実施することができない状況にあった。しかし赴任当時、首都ボゴタの治安は改善されつつあったため、許可を得ながら新しい実践に取り組むことができた。以下にその概要を紹介したい。

2. ボゴタ日本人学校の児童生徒の実態

小学部1年生から中学部3年生までが在籍し、ここ数年は20名前後で推移している。児童生徒数が少ないため、全員が仲良く、上級生が下級生を引っ張る意識が強い。子どもたちは日本語で学校生活を送るが、父か母のどちらかがコロンビア人の場合は、ほとんど日本語を話せずに入ってくる子もいる。

本校では現地理解教育として、コロンビア学習やスペイン語、英会話学習を取り入れている。コロンビア学習では学年テーマを設けて年間を通してコロンビアのことを調べる活動をし、年度末に発表会を行っている。英会話は週1回、スペイン語は小学部週1回、中学部週2回を行い、中には家庭教師をつけて学んでいる子もいる。

治安が改善されてきたとはいえ、誘拐事件等が起きているので、日本のように自由に友達と行き来することはできないのが現状であり、様々な制限をされた中で生活している。またコロンビアは貧富の差が激しく、階級社会が根付いている。保護者の考え方も様々で、現地校との交流について積極的に行うべきだという意見と、低所得者層の子どもたちが通う公立校とはあまり関わらせたくないという意見がある。

3. 活動の実際

(1) 治安に配慮した校外学習

ボゴタは首都であると同時に、昔南米のアテネと呼ばれたほどの文教都市である。教育的価値の高い施設も多く、現地校は盛んに校外学習を行っている。それに比べて日本人学校は校外での活動が計画になかった。そこでまず各教科の年間計画を見直し、それぞれの教科で利用できそうな市内の施設を洗い出した。年間計画ができたところで、まず施設とその周辺の安全確保を考えた。ボゴタ市内は所得によって住み分けがされており、低所得者層の集まる地区周辺では重大事件が多発している。大使館の警備担当とも連絡を取り合い、安全を確認した。次に移動経路の

安全確認を行った。慢性的な交通渋滞やそれに伴う事故等、交通トラブルが非常に多い。安全面や必要な時間などを審議して、慎重に計画を進めた。最後に警備についていただく警護員や警察官の人数を決めた。これらの事前準備や計画をし、大使館の許可を得て実行することができた。

☆2008～2010年度 校外における活動

月	内 容	場 所	対象学年	教科	実施年度など
4	私たちの町（学校の周り）	学校～カレフル（スーパー） 学校周辺散策（徒歩） 学校周辺散策（徒歩）	3～6 3 4 2	社・総 社 国	21年度実施 22 22
5	歓迎遠足	ポリーバル公園	全校	特	21, 22
6	ごみ処理場・リサイクル工場 ボゴタの歴史・重要建築物	ゴミ処分場 国会、ポリーバル邸	3 4 全校	社 生・社	未 21
7	浄水場見学 キャンプ	ボゴタ浄水場 ※キャンプと修学旅行は、同じ年	3 4 3～中3	社 行	22 23
8	修学旅行 なかよし遠足（修学旅行の裏で）	動物園 動物園	3～中3 1 2	行 行	21 21
9	切り花見学 水泳教室（3日間）	切り花農園 警察のスポーツクラブ	全校 全校	総 体	22 以前から継続
10	自動車工場 スーパーマーケット見学	いすゞ自動車 スーパーマーケット	5 6 3 4	社 社	21 21
11	消防署見学 大使館訪問	消防署 日本大使館	3 4 中学部	社 総	20, 21, 22 21
12	マスコミ見学	CITY-TV、新聞社	5 6	社	未
1	警察署見学	警察署	3 4	社	未
2	お別れ遠足	遊園地	全校	特	20

※未…未実施のもの

校外学習については開発段階であるが、日常生活が制限されるコロンビアだからこそ、継続して行っていくことの意義は大きいと感じた。スクールバスがあるため、移動は比較的簡単にできるが、引率教員の数、言葉の壁、事前調査や打ち合わせが容易ではないことなど乗り越えなければならない壁は大きい。ゴミ処分場など、治安の問題で見学できない場所もある。

また、校外学習については、データを残して引き継いでおけば、赴任してすぐの先生でも対応できる。そこで『地域教材ガイドブック』を作成し、より充実した校外学習の継続を図った。



(2) 参加型の現地校交流

ボゴタでは安全確保が最優先のため、現地の公立学校へ日本人学校の子どもたちを連れていくことはできない。現地校の校内も警備はされているが、誘拐や薬物（マイファナ、コカイン）等の事件に発展する可能性があるため、できるだけ関わりをもたないようにしている。そこで現地校交流の一環として、安全がしっかり確保されているラサール校（幼～高校までの一貫教育の私立校）へ1日体験入学をお願いした。ラサール校は教育水準や保護者の意識が大変高い学校である。日本人学校の子どもたちは、年齢に適したクラスへ1, 2人ずつ振り分けられた。そのクラスで朝から帰りまで、日頃学習してきたスペイン語や英会話を駆使して授業を受けた。言葉の不安が大きい

ラサル校の先生方も温かく迎えてくださるため、子どもたちはすぐに慣れてしまった。自分の言葉が通じた、授業がわかった、コロンビア人の子が何回も助けてくれたなどの声が聞かれた。また日頃人数の少ない日本人学校の児童生徒が大勢の中で授業を受けたり、みんなで休み時間にいっしょに遊んだりできる貴重な経験の場ともなった。

☆現地校交流の時間割

	9	10	11	12	1	2
小1	算数	理科	昼食	英語	スペイン語	
小2	英語	図工	スペイン語	昼食	算数	
小3 4	体育	社会	算数		スペイン語	
小3 4	算数	英語	スペイン語		体育	
小5 6	音楽	理科	算数		英語文法	
中1	英語	休憩	数学		昼食	スペイン語
中1	数学(幾何学)		社会	英語		
中2	科学		英語	スペイン語		
中2	社会		スペイン語	科学		
中2	英語		科学	社会		
中3	コンピューター		社会	コンピューター		
中3	社会		コンピューター	数学(幾何学)		
中3	英語		数学(幾何学)	数学		
中3	英語		数学(幾何学)	数学		

(3) 厳重警備の中での修学旅行

ボゴタではここ数年で劇的に治安が改善されてきた。しかし前に述べたように校外での活動には細心の注意が必要不可欠である。国内の政情が不安定なため、修学旅行も以前はコスタリカやパナマなどの近隣の国外で実施していた。2007年度には国内の修学旅行を計画したものの、出発1週間前に訪問予定の都市にて爆弾テロが発生したため中止になった。

2009年度実施に向けて候補地を検討した。するとちょうど日本人のコロンビア移住80周年に合わせてカリ市が候補に上がった。カリ市はコロンビアの中で日本人が最初に移住した場所であり、現在でも体験談を話して下さる人が大勢いる。またボゴタから飛行機で1時間ほどで行くことができ、日系人協会もあるので連携を取りやすい。安全面は調査を大使館の警備班に依頼をし、カリ市の警察に情報を聞きながら、6名の警察官を派遣していただいた。さらに今回の修学旅行では日系人協会の方の家にホームステイさせていただくことができた。子どもたちは2～3名に分かれて日系人の方たちのお宅に2泊し、しっかりと交流を深めることができた。以下が、その行程表である。



時間	1日目 (8/28)	時間	2日目 (8/29)	時間	3日目 (8/30)
7:30	空港集合	6:30	起床・健康観察	6:30	起床・健康観察
9:00	ボゴタ発 (飛行機)	7:20	朝食 (ホームステイ家庭)	7:20	朝食 (ホームステイ家庭)
10:00	カリ空港到着	9:00	【活動D】 日系人協会 ・講演 (移民の方) ・日本語学校見学 ・交流 (文化紹介)	9:30	【活動F】 日本人会の運動会に参加
10:15	カリ空港発 ・小型マイクロバス ・カリ警察と合流				
11:00	【活動A】 パライソ (マリアの家) 【活動B】 さとうきび博物館	12:00	昼食 (レストラン・ピザ屋)	12:00	昼食
13:00	昼食	14:00	【活動E】 新地さん農場 (農業体験学習)	14:30	空港へ移動
13:30	【活動C】 マヌエリタ砂糖工場			15:20	カリ空港着
17:00	ホームステイ家庭着	17:00	ホームステイ家庭着	16:30	カリ空港発AV000
18:00	夕食	18:00	夕食	17:25	ボゴタ着
19:00	各家庭の計画による	19:00	各家庭の計画による	17:30	解散 (空港にて保護者へ 引き渡し)
20:00	入浴	20:00	入浴		
21:00	就寝	21:00	就寝		

日系人協会や警察の協力があり、予定通り実施することができた。修学旅行などの宿泊行事ともなると学校だけの力では実施することが難しい。だからこそ子どもたちのために様々な協力を得ながら実施することに意味があると感じた。

4. 考察

コロンビアでは、近年治安が改善されてきたとはいっても、最大限配慮しなければならないのは変わらない。現地理教育を進めていく上で、子どもたちの安全を確保するために治安の問題をクリアしなければならないのは当然である。しかしボゴタでは、市内を見渡してみると校外学習や授業のヒントになりそうな施設が本当にたくさんある。日頃、日本人は家族での行動であっても制限されがちな生活を送っているため、余計に校外の施設や現地の人々とふれ合える機会は子どもたちにとって、貴重な経験となった。日本人学校の事情として、派遣教員は短い期間で入れかわっていくので、年度の終わりにしっかりと年間計画を見直し、継続していくことができるようにしていく必要があると感じた。

5. おわりに

それぞれの日本人学校が地域の特性を最大限に生かし、子どもたちに様々な機会を提供することは普遍のものといえる。保護者の意識は、日本人学校が日本の学校と同等の教育をする場であることにとどまらず、より魅力的な学校経営を求めようようになってきている。今回の実践が今後の現地理教育において、魅力ある学校経営において何らかの役に立てればと思う。